週刊新聞
直言

SOCIALISM＝ソーシアリズム＝社會主義＝社會主義は土地、資本、其他あらゆる生産機關の公有を主張する者なり

直言は日本社會主義の中央機關紙也!!!

我が行く道

（一）
我が行く道は前にあり
我が行く道は前にあり
荒れ田に土を反すべく
枯れ木に斧を揮ふべく
種を播くべく摘むべく
芽を吹すべく育つべく

（二）
我が行く道は前にあり
我が行く道は前にあり
劍の山も歩むべく
炎の海も滑るべく
暗を逐ふべく破るべく
光り待つべく迎ふべく

（三）
我が行く道は前にあり
我が行く道は前にあり
皆富の國を造るべく
自由の國に走るべく
鎖切るべく放つべく
手を握るべく擬ふべく

（四）
我が行く道は前にあり
我が行く道は前にあり
野に樂園を現ずべく
地に天國を築くべく
主義叫ぶべく傳ふべく
身を捧ぐべく進むべく

（五）
我が行く道は前にあり
我が行く道は前にあり
[illegible]には俱に稼ぐべく
[illegible]には俱に遊ぶべく
[illegible]べく泣くべく
人愛すべく睦むべく

（此歌は既に第十六號に掲げたるもの、此度白鳩子の作譜を得たるに依り更に茲に掲ぐ）

ト調 2/4　（白鳩生作譜）

歸省學生に勸む

無趣味なる下宿屋、殺風景なる寄宿舍を離れ、塵と埃と罪惡との都門を辭して故園に歸臥する學生諸君よ、吾人は諸君が新鮮なる田舍の空氣に身と心とを養ひ來らんことを切望す、然れ共吾人は諸君に向て徒に悠々閑夢を貪らんことを勸むるに非ず、吾人は諸君が此の數旬の日子、書冊より離れて眞個に人生社會の實相を觀察研究せんことを熱望せずんばあらず、諸君の故園は其の恰當の資料を整頓して諸君の歸省を待ち構へてあれば也、

思ふに讀書と見聞とは、諸君をして都門の汚穢虚僞罪惡とに喫驚憤慨せしめしならん、其の物質的繁華の底に跳梁する道徳的惡鬼の活劇は、諸君を驅りて或は人生の懷疑に煩悶せしめ、或は田舍の清閑に眷戀せしめしならん、然れ共都門の罪惡虚僞は、都門自身の創造に非ずして、實は諸君が地上の淨土と戀々する田舍頽敗の結果なることを知らざるべからず、諸君は都門の罪惡に就て、其の必竟生活の競爭に外ならざることを學べるならん、記憶せよ、都門の餓鬼は滔々として田舍の敗殘にあらざるなきを、諸君が都門に遭遇せる所のものは、殆ど皆な是れ凡て一の田舍人なり、都會の陋巷に困臥して一簞の食、一瓢の飲にだに飽くこと能はざる可憐の子女は、皆な是れ四方の田舍人なり、諸君は彼等が都門に迷ふて饑渴するの狀を見て、始めて顧みて「田舍」の窮狀を想像し得るならん、

都會の研究は元より必要なり、然れ共其の範圍と事情と活動との廣濶錯綜頻繁なるが爲めに、之を成すこと極めて困難也、田舍に在りては然らず、事實關係凡て簡單なるが故に、其の推移變遷の實相を見ること頗る容易なるものあり、且つ何れの村落に至るも必ず二三父老の活歷史ありて、其の封建制度崩壞の前後より今日に至る三四十年の社會的變動を物語るものに逢はん、更に己が幼年時代の記憶を喚起して以て今日の我が居村の狀態と比較し來らば、村民の死生、增減、榮枯、盛衰、歷々眼頭に浮び來りて、以て諸君の解釋を促がすべし、注意せよ、草刈る翁も牛追ふ童も其の變遷の事實と根本の原理とを語るに於て、都門の博士教授輩の思ひ及ばざる蘊蓄を有するならん、吾人は旅行に於て常に此感に打たるゝものなり、故に吾人は先づ諸君に向ひ、極めて謙遜の心事を以て故園の父老子女に對せんことを望まざるを得ず、

然れ共諸君は單に故園の父老子女より學ぶのみにて足れりとすべからず、諸君も亦た彼等に向て必ず何等の報酬する所なかるべからざる也、他なし、彼等が空しく田舍頽敗の趨勢に厭世の感慨を深ふするものを遮りて、人生社會本然の光輝を語り、且つ今日の禍を轉じて明日の福となすの方針を示さんこと是れ也、蓋し田舍人は外來の壓力に慣れて、之を回轉する所以の氣概に缺乏す、故に今日個人主義資本家主義の經濟事情が、世界を通じて善良なる勞働者を愈々益々迫害するの理由を思はずして、漠然として之を天來の運命となす、是れ彼等が默然滅亡を待つのみにして曾て進取改革の動機に觸るゝ能はざる所以、人生の悲慘豈に之に過ぐるものあらんや、學生諸君、諸君が都門に學べる所の者は、諸君が故園の父老と朋友とをして、田舍の頽敗の決して天の運命に非ずして、人の罪過なることを理解し、此の人生社會の根本的誤謬を救濟せんが爲に、世界を通じて社會主義の運動旺盛なることと、日本に於ても亦た同一の機運勃々たることを知得せしむるに、格別不足ならざるべしと思ふ、是れ必ずしも故園の父老朋友に教ふるのみと思ふべからず、又た實に諸君自らを教ゆる所以なり

近時夏季の學生に對して山に登り海に遊ばんことを慫慂するもの漸く盛なり、吾人亦た之を贊成せざるに非ず、然れ共更に大切なることは則ち「愛人」の途を學ぶことに在り、吾人が諸君に向て田舍の研究と教道とを忠言する所以のものは、則ち是れ「愛人」の尤も適切なる手段なれば也、

夏期遊說の計劃

▲去年の夏期、西川光二郎君は東海に於て、木下尚江君は信州地方に於て、其他多くの學生諸君は各其暑中休暇を利用して、所在相應じて盛んに遊說を試み、著大なる傳道の功を奏したり

▲今年又夏期となれり、西川、幸德の二君は巢鴨に靜臥して無言の傳道に從事せり、他の同人亦此好時機に於て活動する所なかる可からず

▲木下尚江君乃ち先づ東北遊說の計劃あり、七月より八月にかけ約三週間の豫定を以て出發せんとす、道順は未だ決定せざれど山形縣に入る事だけは既に約束あり、沿道の同志にして便宜を與へたまふべき諸君は、成るべく至急に御打合せを乞ふ

▲別に左の諸氏は、七、八兩月中、地方同志の招きあらば成るべく繰合せて遊說の途に上るべき準備を爲せり

山田金一郎　永井柳太郎
山口義三　田添鐵二

▲注意　吾儕の遊說は固より旅費報酬の多くを要求するものにあらず、然れども吾儕は又旅費自辨の遊說を爲し得るものにあらず、三等汽車賃、其他必要なる車馬賃及び宿泊の便宜を與へられんことを乞ふ、但し宿泊は宿屋なるを要せず同志の家に宿泊するを[illegible]

THE CHOKUGEN.
SOLE ORGAN OF JAPANESE SOCIALISTS.
Issued every Sunday.
Communications addressed to the [illegible], Tokyo.

Vol. II.　Tokyo July 25th, 1905.　No. [illegible]

SYMPATHY ON US

Comrades Kotoku and Nishikawa who are now both in prison, have just received letters [illegible] from comrade Huysmans, the secretary of the International Socialist Bureau, representing the [illegible] of the Bureau, saying that he congratulates upon their working for the cause in this manner, and wishes their patience and forbearance.

They wrote us that they can not now answer [illegible] they are allowed to write a letter only once in a month. But they are, they wrote us also, deeply consoled with the sympathizing letter and greatly encouraged to work harder for the cause when they shall be released, [illegible] ing in its full meaning that they are thus making a part of the great international movement.

By the way, Kotoku shall be released on the 28th inst., and Nishikawa must remain there till the end of September.

PROPAGANDA AMONG RUSSIAN PRISONERS.

Mr. Nicholai Russel is said to have come here from America to propagate [illegible] among the [illegible] prisoners in this country. He is now visiting the prisoners in many districts and making speeches everywhere to inspire them with the revolutionary spirit. We do not see him yet.

We had again received many bundles of [illegible] papers and pamphlets from the comrades of America. We succeeded to distribute them among the [illegible] prisoners as they were intended to be.

PEACE NEGOCIATION AND POOR PEOPLE.

The peace negociation is said to be commenced in the beginning of August at Washington. And the [illegible] politicians and journalists are insisting very vigorously that it is too early to [illegible] peace now, and that it is quite necessary not to allow the armistice.

But we see under the cover that poor people in the slum, especially [illegible] of soldiers in the front, are now in utter [illegible] and clothes in [illegible] season. This is the true condition of Japan.

JAPANESE LABOURERS IN HAWAII.

Among Japanese labourers in Hawaii there is a body called the "Reformation Society." It forwarded a petition to our Foreign Minister about the [illegible] of the Emigrant Company. Reading the petition, we feel that we see just before our eyes the old slave trade of Africa. And many honorable gentlemen in this country are said to have got their wealth from this very source.

（平民社電話　本局三三六二番）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日本之新聞

○霖雨と貧民

梅雨とは云へ、此の連日の降りみ降らずみには、都市貧民の困窮、眞に名狀す可らざるものあり、左の諸項を見よ

△淺草區 の松葉町、神吉町、下谷區の萬年町、山伏町、入谷金杉、龍泉寺町等にては、貧民の窮業ともいふべきは、硝子屋、紙屑、空壜、古帽買、羅宇屋、下駄の歯入、其他紙屑拾等を併せて其の數千人に超ゆるなるが、昨今の霖雨に生活の途を塞がれて困憊してゐる狀態の有樣中々筆にも盡されず、併しまたそれ相當の筋道も付いてゐて、百軒の問屋へ迫つて棚日の料を借出し、かつ/\其の日を暮して居り、最もこれは毎日の事だから多額は貸出さず技倆のあるものに十錢、其以下のものには五錢が精々なり、されば朝夕の飯食費といふものが遣つて來て僅か二錢も出せず一人三食の量は十分ある上に、菜は五厘以上出費の澤庵を買つてお菜を調せり

△殊に龍泉寺町 には三木屋長屋と稱する二百以上と、入谷金杉地にはボール長屋と稱する十棟(一棟八戸)の貧い長屋あり、家賃は一日四錢又は五錢の日拂なれど、それすら滯りがちに溜り勝になつて行くと、其筋暗が出して居る博徒が眼を光らせて門口から怒鳴り込むといふ段取なり

△歸鄕兵舍給與 の如きは夏場を季節とし、折々洗濯ものゝ糧食類などちよろまかして鑑賞の厄介となるもの多し、これは聞屋で一本二錢に買入れることに極り居るものにて、惜しい哉彼等は夏を書入れに爲し居るなれ(以上朝日)

△芝の新網 『それから勞働者が多いに從つて出征軍人も五十人以上出しましたが、恐らく何處の町内でも此位多いのは鮮からう、處が、勞働者の家から壯丁を拔き去られては家族等は餓死といふ悲慘の狀態に陷らねを得ない、そこで此町內丈けは大抵一人に就き一圓の比例を以て家族の救助を遣る樣になつて居りますが、何分少額の事でありまして、之で饑を凌ぐといふのですから其慘狀も亦想像の外で、實物を以て訪問致すの外はありません』と、是非實狀をとの事に案內せられ、先づ出征軍人伏見長次郎の家族を訪ふ、所謂九尺二間の宅に妻女は十二歲を頭に五人の子供等と甚しく住ひ居れり云々

△一日四錢の露命 讀者よ試に想へ、母子六人家內にて七圓五十錢の救助金を以て衣食せざるべからず七圓五十錢は普通一人の下等生活費なり、されど彼等は六人家內なり、一人一日の衣食費僅々四錢强に當る、其の窮乏の程度亦想察に餘りあらずや

媾和の時機尙は早し、戰爭は猶は繼續せざる可らずと唱へらる、其の日本の首都の中央に於て、此の悲慘の光景は展開せられ居るなり、而て國家と稱する者も、政府と稱する者も、敢て之を救はんともせず、又之を救ふの策をも知らざるなり

○奴隷賣買の現存

布哇の日本移民中に革新同志會なる者あり、一封の請願書を外務大臣に寄せて移民の慘狀を訴へたり、之を一讀するに、彼の恐ろしき奴隷賣買が今猶は吾人の眼前に存在せるの感あり、試みに請願書中の數項を左に錄す

△布哇移民が最初布哇に渡航致さんとするときは移民保護法により是非共移民會社の手を經ざる可らざす、而して、會社は先づ二十圓の法定手數料を先取り致すものに有之、斯くして約一二箇月の後、各府縣廳より旅券を下附せられ候も、會社は之を本人に渡し不申、只横濱に來るべしとの命令を下すのみにて、移民各自は其命に從ひ、少くも二百五十圓多きは三百圓位を調達仕り、指定の地に赴き指定の旅宿に宿泊致すものに御座候

△然る處、此旅宿と申すは豫ねて會社と結託して移民の宿泊を業と致す者なれば、其宿泊料として先づ移民の所持金を調査せしめ、携帶金百圓と船賃六十圓を差引、其殘金は種々の名義を附して無理の移民より取る樣業と致すものに御座候(實例略す)

△如斯して後日出帆の間際に至りて、携帶金を京濱銀行に預け入るべしと迫り、一度同銀行に預入れたる以上は最早再び手にする事能はざる次第にて、銀行より渡し呉れる預金證書は人により或は直に三箇年間の定期預金證書と引換ふるもあり、或は一時單純なる無利息預金證と引換ふるもあり、何れに致しても銀行は之を携渡すものには無之、移民がホノルヽに上陸を希望するも、米國官憲を欺瞞して共に之を拒み、又もや船に積まれて心ならずも不知案內の耕地に送られ直に苦役に就かさるゝの仕組に相成居候

△斯くして一人の移民に就き、移民會社が別に耕主より秘密に若干弗の手數料を受取りつゝありしやにも亦知致候、是明に人身賣買を實行致居るものにて文明の今日、誠に人道の敵として惡むべき所爲に御座候

△移民會社は日本より布哇まで移民一人の運賃六十圓中、二十圓若しくは十五圓の割戾しを受け居候事は、布哇までの運賃も桑港までの運賃も同額なるにて明かなり

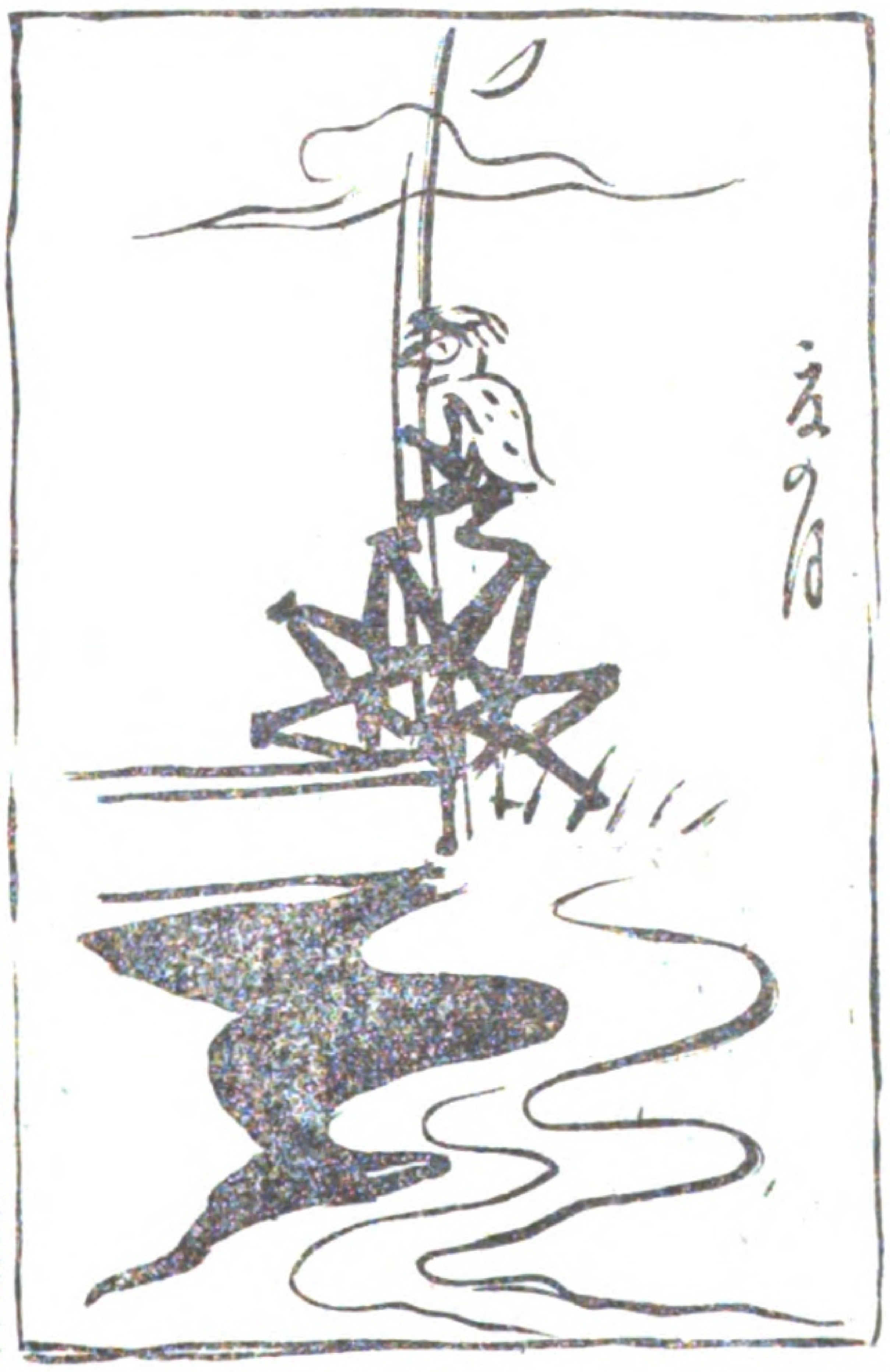
△若し又移民中携帶金の調達叶ひ難き者有之候場合は、會社は十二圓五十錢の利息を先取致し之を貸付くる規定に有之、然る場合には月賦を携帶の信用證書を移民より徵し、現金の代りに三年据置の定期預金證を移民に渡し、之を携帶金として上陸せしむるものに御座候、此類の移民は、着布の上は十八ヶ月間二弗五十仙宛を京濱銀行に積立るものにて候、斯くして積立てたる金員も之が支拂は到底求め難きものに御座候

或は移民保護の美名の下に、或は過剩人口處分の理由の下に、所謂移民屋を業として、數年ならずして巨萬の富を握み、美妓を落籍して妻と爲し、投票を買收して議員と爲り、當世第一流の紳士として探振善き者、其の富の由つて來る所を溯れば即ち實に斯くの如き也、眞に是れ生民の膏血を絞るものに非ずや

○ラツセル氏の俘虜遊說

前號にも記したる元露國人ニコライ、ラツセル氏は去廿三日習志野俘虜收容所を訪問し、俘虜中の重立てる者を一堂に會して演說を試みたり、其の大意に曰く

△今回の戰爭の如きも固より武斷派の暴逆なるに基因したるものにして、露國國民の利害に何等の關係あるに非ず、諸君が銃を執て敵を驅逐せるは是れ祖國の爲に盡力せしものにあらずして、則ち暴逆者流の慾望に供せられたるのみ、露國爲政者にして尙反省するなからんか、異日、芬蘭、波蘭、高加索等は各自獨立の旗を飜し、西伯利亞の曠野は列國の分割する所となるや必せり、故に諸君にして露國將來の長計に想到せば、須らく此際現政府を顚覆して立憲政體を創造せざるべからず



前號に載せたる氏の經濟學協會に於ける演說中には(東京經濟雜誌の記載に依るに)、猶は左の如き數節あり、併せ錄す

△經濟界及び政治界に於て優勢なる平民主義は更に一層進步すべきを信ず、是れ敢て吾人の賛否に拘はらず、前途幾多の障害を排除して奮起すべし、恰も太陽の昇るや其の運速は人力の如何ともし難きが如く自然進化の法則に從つて必ず振起し來るべき也

△今日各派を區別する城壁は唯一關稅に過ぎざるべし、而も稅關と雖も永久に割據するや否や疑はし……而して萬國關稅同盟は既に成立して現在の各國家は單に世界强邦の一員たるに至るべきなり

△諸君は日本封建制度の消滅を實見したり、諸の將に世界に來らんとする大封建制度の消滅に關し、は諸君は最好の審判者なりと云ふべし

○九錢の石炭船積器械

豫て計畫ありし九州鐵道會社の石炭船積器械は既に現品到着し、多分來月初旬より組立に着手し、約三箇月後には完成すべし、該設備は繫船岸壁に二千乃至三千噸の汽船を橫附し、陸上に裝置せる機械二臺を以て直に本船に積込み得るの仕組には、器械の價格は一臺約十一萬九千圓を要し器械の高さは地上約五十尺にし、精巧宏壯なる裝置なり、又一臺の積載力は一時間約三百噸にして、二千噸の石炭を積了するには七時間以內を以て足り、之に要する人員は一臺僅かに五人を以て足れりと、されば今回の器械据付は門司、若松等の石炭仲仕數萬人に對して一大打擊を與へ無數の失業者を出す事となるべし

○青眼白眼

△新領土が現出したとて一時は大騷ぎであつた新嘉坡は、今や漸く海中に沒入しつゝありとかや、領土擧拜の迷信家連に申す、御愁傷樣△東西本願寺法主會見の結果、今後鬩牆相提携する事となり、此際、固より其の財政を救助し、教學機關等を合併するならんと、本願寺も一種の財閥……、經濟的封建制度の大諸侯なれば、ヤツパ麥酒や紡績と同じ樣にトラストを作るのだらう△『二六』の戰捷紀念案の中に『一戶主には必ず一萬圓の資產を享有せしむべし』といふ箇條がある、尙同紙には『世界は今に黃金の洪水を以て漲つに至らんか』と書いてあつた、世間には社會主義者の事を夢想家だと云ふが、今の拜金宗の信者の方がヨツポドふらい夢想家だ△今度合併すべき麥酒の三會社が、足まで分立して競爭した結果、無益の費用年々三十萬圓も掛つて居る、是でも猶は自由競爭論を唱へる人があるとは△國家主義の下に國體の獨立と發達を企圖するとて、國語會といふが出來た、宮內省あたりの老骨連が神怒りに怒り玉ひての事なるべし　東京市には不就學兒童が一萬六千ある、是は掏摸、掏盜の卵と云つても宜い

●平民社より

▲今度新しいチラシが二三種出來ました。今後も色々變つたのを拵へる積りです。チラシを配るのは實に有効な傳道法であります。然しチラシの配り方に二種あります。數千枚、若しくは數萬枚のチラシを、人も持ばず片はしから配るのと、僅かに數枚數十枚、然れもいづれも面白き方法であります。

▲東京では(警視廳の管內では)、此のチラシを配り步まで禁ぜられて居りますが、然しそれは公園や道路で公衆に配ればこそで、友人や、知人や、隣人に少しづゝ配る分には、如何に政府が數萬の巡査を養つて居るからとて、手の付け樣はあるまいと思ひます。そこで我々は今後此の小規摸のチラシ配りをやりたいと思ふのです。小規摸と云へば何だか氣の乘らぬ樣な心地もしますが、然し實際の効果を考へて見ると、バラまきの一萬枚より心をこめた百枚の方が、存外こたへがあるかも知れません。

▲そこで此方法に御賛成のお方は、何卒少しづゝ、面して絕えずいつまでも、やつて戴きたいのです。尤もチラシとて只で印刷は出來ませぬから今後は篤志の諸君に少しづゝ買つて戴きたいのです。と云つて澤山の金が入る譯でもありませぬ。先づ百枚十錢(即ち一枚一厘)と定めて置きます。地方の諸君は切手十錢御送りあれば郵便はこちらで負擔いたします。若し買つてドさるお方が澤山にあれば、今少し價を下げる事も出來ます。第八頁に『社會主義と女子』と題したチラシの文章が載せてあります。猶は外のも追々に載せます。チラシの文案の投書を歡迎します。

▲『貧人の自白』中篇が愈よ出ました。お讀みになつたお方は何卒批評をお聞かせ下さい。前白いの面白くないのも、そうしたら木下君も定めし喜んで喫れる事と思ひます。下篇は昨日より毎日新聞に載りはじめました。

▲『革命婦人』は既に七百部ばかり賣れました。『文庫』といふ雜誌に『我等は平民社の諸君を惡罵するに亂臣賊子を以てする者の惡を斷つ』と嚥し、然も今日の我邦婦人に、此類の書を讀ましむるの必要は、敢て之を認めず』といふ批評がありました。女は男の認可した本ばかり讀むべきものでせうか。

▲共產黨員事件の公判は明日東京控訴院に於て開かるゝ筈ですが、堺君は久しぶりにまた出廷が出來るそうですから、どうなりますやら。

▲小川芋錢君が久しぶりに又畫を送つて喫れました。本號のは即ちそれです。次號にも又載せます。芋錢君の手紙の端に左の一句がありました

△五月雨、瀨にらまへんばかり事
△草の戸や、眞鍮の胡瓜花さきの　同　芋錢

○活版工組合誼友會大會

同會は今度創立滿五ヶ年の祝賀を表せん爲め今日(七月二日)午後五時より京橋區木挽町一丁目梅半亭に大會を開、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世界の新聞

○南阿に於ける社會主義

吾人は南阿ツランスヴワールに於ける、黄人の[illegible]者の侵入、白人勞働者の減少、一般[illegible]勞働者の[illegible]に就きて、屢々報導をなし、且時に社會主義の起らざる可らざることを記せり。

▶▶▶社會主義運動の生起▶▶▶

然るに最近のウオーカー(新育社會)紙は同ち同地に於ける社會主義運動の生起を報じ來れり。

[illegible]同人は、[illegible]月刊新聞を發行せり[illegible]

同紙の[illegible]られてより今は既に八ヶ月を経過し來れり。同人等は目下ダルバン市(ナタル州)に於て、[illegible]週[illegible]會[illegible]をなしつゝあり

[illegible]

[illegible]一方[illegible]進むる[illegible]か若し[illegible]

[illegible]ある也[illegible]

[illegible]政府の支配の下にありし時に於ては、其家屋税僅かに每[illegible]ポンド[illegible]なりしが、新たに英國の治下に[illegible]及んで俄かに何[illegible]の高きに騰[illegible]するに至れり。

[illegible]カッファー人は[illegible]なる[illegible]即ち土着人民をし[illegible]貧銀勞働をな[illegible]し、已むを得ざるに至らしめたる也、而も此の苛税に依り、納士[illegible]の用を辨じつゝあり。即ち一には政府の歳入を増し、一には資本家の財產に課せらるべき租税の割合を減ずるなり。

△而して其影響は白人並びに黑人の頭上に來れり。即ち白人は雇用せらるゝの機會を失へると同時に、其賃銀をも減却せられ、黑人勞働者は甚だしき虐待の結果、或は逃亡し、或は多數の死を出せり。

斯の如くにして、土着のカッファー人は、前には惡魔に向ひ、後には大海を控へて、進退維れ谷まり、元來平和の[illegible]人なりし彼等も、今は無賴放浪の徒と變じつゝある也。

△要するに、一方に家族と智慧とを[illegible]黑人を備へ、他方に貧しく憐れむべき白人を置き、而して更に之に反對なる黄人勞働者(主として支那人)の多數を混じ此間に経綸して獨り資本家は其權力を維持し、暴利を貪りつゝある也。

嗚呼、かくてクリスチアン文明の名の下に、[illegible]、敦厚、平和なる、神の造りてふ田園生活は、日に月に荒癈、破壞せらるゝ也。

▶▶▶將來の希望▶▶▶

資本家の横暴、斯の如く甚だしく、勞働者の慘狀、亦々斯の如く甚だしきも、吾人は此間に於て、猶は將來に大なる希望を懐くに足るべきの事實を有す。

△第一、從來相互に反目し來りし英、蘭兩勞働者間の反感情は、今や急速に消滅しつゝあり。

△第二、前段記載の如く、社會主義運動の萌芽が白人間に起りし事。

△第三、黑人の間にも、既に國際的反抗運動に着手しつゝある事。

△第四、支那革新協會の運動も、亦た漸く強大となり來れる事

の如き、即ち是れ也、若し夫れ、南阿に於ける此の三人種か、其の合同の運動を継續し行くに至らば、是れ實に、萬國勞働運動史上に、光輝ある一紀元を劃するものと云ふ可し。

○露國革命運動　去る廿五日のロイテル電報に曰く

△露國政府は詔章を發し、新聞紙が露帝の地方代議會議員になしたる陳述を以て、露帝も立憲主義の法理に基きたる國會の開設を約したるものと解釋する議し、露帝は堅く帝國の根本的法律に從ひて之れが開設する意味したるなりと云へり

と、果して然らば、露國政府の[illegible]なるや、眞に諒む可き也、然るに同時に、同電報に曰く

△高加索にエリワン地方(土耳古國境に近き所)に於ては、激烈なる擾亂起りアルメニア人に對し暴行を加へつゝあり

又た廿七日の外務省着電(ワルソー發)に曰く

△ロッヅに於て重大なる騒擾起り、廉害物を製造して對戰するに至れり、又ワルソウ市内に於ては警察官と革命派との間に絶へず爭鬪あり△シンスク[illegible]に於ては農民の騒擾は容易ならざる形勢を呈するに至れりと云ふ△コーカサス地方よりの最近電報に依れば、同地方は近來名狀すべからざる無政府の狀態に陥りアルメニアン人の虐殺せらるゝもの多しと

更らに廿八日の外務省着電に曰く

△ロッヅに於ける騒亂に關し、ウオルフ通信社の報する所左の如し

△爭鬪は市内二十ヶ所に於て始まり、右各所には何れも多數の防禦塞造せられたるが、軍隊は工兵の援助に依り之に[illegible]せり

△武裝せる職工約六萬人は、歩兵四箇聯隊コサック及び龍騎兵二箇聯隊と對戰し、到る處爆裂彈を投じたる、爲めに軍隊の損害[illegible]からず、右爭鬪の結果、既に二千名以上の死傷を生じたりと云ふ

△守備隊應援の爲め歩兵及び騎兵各一個師團ロッヅに到着せり

△ツエンストハン市に於ても同樣の騒擾ありたりとの報あり

蓋し政府が非立憲的迷妄に固執し居る間は、騒亂は到底鎮靜すること無かる可し。吾人は露國同志の奮鬪の狀を見て、常に血の沸き肉の躍るを禁ずる能はざる也。

○諸國社會黨集會彙報　近時歐米諸國に於て社會黨の集會を開くと甚る頻々たり。左に報導せる、佛國社會黨の大會、英國獨立勞働黨大會、英國社會民主同盟大會の如きは、則ち其の著大なるものとす。左に猶ほ、是迄報導せざるしものを集録すべし。

△瑞典青年社會革命黨大會　去る四月廿三日ゲーテブルヒ市に於て開會

△瑞典青年男女社會民主同盟大會　ペンテコストの日、ストツクホルム市に於て開會

△那威青年社會主義協會大會　同じくペンテコストの日、ボルスグランドに於て開會

△匈牙利社會黨全國大會　去る四月二十六日、首都ブダペストに於て開會

△獨乙ウールテンベルヒ王國社會黨大會　四月廿三日、スタツトガートに於て開會、百四十三地方を代表せる三百人の代表者出席せり。同黨の發達は近時顕だしく、一九〇二年に於ては黨員七千二百四十一人なりしに、一九〇五年(即本年)に至りて一萬一千八百餘人となり。機關としては二箇の日刊新聞あり、一は一萬四千六百二十九の讀者、一は千百四十六の讀者を有せり。

△サキソニー社會黨大會　四月廿三日及び其翌日ライプチッヒに於て開會、全黨々員は今や實に五萬人の多きを致せり。

△白耳義勞働組合大會　本月廿日開會の筈

△紐育市社會民主黨大會　五月三十日ニユーヨーク市ターンホールに開會、別に評記すべし。

△北米ペンシルヴァニア州社會黨大會　五月廿八日廿九日兩日に亘りて開會、州出納官、大審院裁判官等の推薦ありたり。

○露國の同盟罷業　露國諸新聞紙の報する處によれば、最近十日間に於て、露國各方面に亘り多數の同盟罷業ありたり

△モスコー、キエフ、カルコフ、ロッヅ、ヴイルナ、セワストーポリ、オデッサ、コヴナ、チルチエ、ウオローチズ等の各地皆然らざるはなく、其多數は今尙は罷業を繼續中なり。

△罷業に係る職業は種類頗る多く機關士、馭者、大工、縫紉職人、屠牛業者、電氣鐵道の職工、工場の被雇者、農夫等を包含し而して之に加はる者の地位如何は各地方の狀況に依りて一ならず、罷業の結果は例に依り軍隊との衝突を來し死傷を伴ふを常とす

△カルコフに於ては豫備兵は[illegible]に對して發砲することを峻拒せるのみならず、却て之に加擔せり、他地方にも此例少なからざるは疑を容れず

△諸地方中事態の最重大なるは、コーカサスにして近頃此の地方を旅行し來れるものゝ談に依るに、同地に於ては全然無政府の狀態に陥り、最早官衙と認めらるべきものなく、軍隊は命令に從はず、裁判所は其の判決を實行することを得ず、人民は自治制を興さんとして努力中なり、又ゴリに於ては小共和國建設せられたりと云ふ

暗澹たる紛亂の狀、眼前に見るが如し、嗚呼、苦鬪し又た苦鬪して止まざる我が同志よ、汝を包める暗黒の帷を破りて平和の勝光の輝き出づるの時、夫れ近きにあらん。

○產業組合と社會黨との大合同　白耳義に於ては、頃日、百九十八個の消費組合と、二十五個の生產組合と、共に同國社會黨に加入したり。其内最も大なるものを舉ぐれば、

△二萬人の組合員を有する『プログレッス』、ヂヨリモント組合

△二萬人の會員を有するブルッセル人民館

△一萬人の會員を有するゲント同盟會

△六千人の組合員を有する『エドワード、オブ、ガンド』組合

の如き、即ち是なり。吾黨、近來の傑觀と云ふ可し。

○北米に於ける罪人及び狂人　左に掲ぐるは北米合衆國に於ける犯罪者及び發狂者の統計なり。讀者諸君よ、之に依りて狂人及び罪人増加の數か、人口増加の割合に比して甚だ多きことを知るならん

	人口	罪人	狂人
一八五〇年	[illegible]	[illegible]	[illegible]
一八六〇年	[illegible]	[illegible]	[illegible]
一八七〇年	[illegible]	[illegible]	[illegible]
一八八〇年	[illegible]	[illegible]	[illegible]
一八九〇年	[illegible]	[illegible]	[illegible]

個人的資本家制度の弊、何ぞ爾しきや。

○清國立憲政治に關する勅諭　東京朝日新聞の北京電報に曰く

[illegible]憲法政治調查の爲め[illegible]し立憲政體に[illegible]べしとの[illegible]出でたり

と、老大朽木の根に於て漸く新芽の萌發せんとするもの歟、希くは健全なる新生命を以て勃興せんことを。

○非軍國主義運動　那威[illegible]社會黨[illegible]協會は、軍國主義に[illegible]の聯合運動を爲さんとする瑞典及び丁抹の同志と[illegible]し、スカンヂナヴィア三王國及[illegible]に配布すべき、パムフレット(小冊子)を發行するに決したり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◉生産方法の發達　ハーンドマン氏原著　枯川生譯

（四）奴隷制度（續）

常に其の[illegible]古代の周圍に於ける事情の變遷を知らんとせば、金錢、商業を目的とする[illegible]、及び奢侈を目的とする奴隷制生産、漸く盛にして古代の血族的共産組織の遺物を掃蕩せり。

△富の蓄積に則りて其の力が增大し、奴隷の[illegible]田野、都市[illegible]羅馬[illegible]カトー[illegible]何の異なる所なし。

△奴隷[illegible]の地位に在る者と雖も、必ず[illegible]取締（名じ）[illegible]其の組中の勞働者よりも[illegible]。

△富者羅馬人の財産の最も重要なる部分は奴隷にして、土地、鑛山等は其の重要の度に於て、第二位に在り。作文者、技藝者、醫術者、會計者、其他の專門工人の如きは、其の價格、他の一切の財産を合するも之に當るに足らずと認められたり。

斯くの如き大奴隷軍に依つて集積せられたる富は實に莫大のものにして、其の羅馬に於けるが如きは、近世米國に於てヴァンダビルト、ジェー、ゴールド、ロックフェラ、アストル等が彼の大富を握るに至るまで、人類の歴史に於て未だ曾て見ざる所なり。

△[illegible]

斯くの如く見来れば、此の奴隷生産法は、封建制よりも、頗る今日の賃銀奴隷制に似たりと雖も、二者の間には甚だ異なるものあり。前者に於ては、生産者も生産物も共に其の主人に屬するが故に、二者共に之を他に賣却するを得べし。又其の生産物の大部分は貿易市場に出ださるべしと雖も、而も當時の土地及び奴隷所有者は決して今日の意味に於ける資本家に非ず。彼等の富は只だ其の奢侈の爲に用ひられ、若しくは其の名譽を增さんが爲に用ひらる。彼等は其の富を以て、更に多大の富を得んが爲に、他の生産事業を起すに非ず。故に其の社會關係も全く今日と異なり手段も目的も全く今日と別樣なり。然れども其の外面の結果は大いに相似たり。先づ之を奴隷の側より見んか。

△古代の奴隷は自己の地位を當然と思惟したり。そは今日の勞働者が大抵自己の地位を以て一定不變のものゝ如く思へると同じく、實に避く可らざる自然の成行なり。

△彼等は奴隷なき社會の存在を想像することも能はざりき。當時の大哲學者にして猶ほ同樣の意見を持したりき。アリストートルの如きすら、若し器械の助けを得る事あるに非ざるよりは、此の礎石を動かすの方法あることは無しと思へりき。

△然れども、當時奴隷の數は非常に多くして、實際に於て頗る有力なりき。アテンに於ては、自由市民九萬人に對し、三十六萬五千人の奴隷と四萬五千人の[illegible]とあり。コリンツ、エヂナ、スパルタ等亦ほゞ同樣なり。羅馬に至つては、其の[illegible]に甚だしきものありき。

△されば權力階級は、常に此奴隷に對して少からざる恐怖心を抱きしが、奴隷の數は如何に大なりしとは云へ、時の經濟上の大勢に抗すること能はず、其の叛亂は思ひしほどの事も無かりき。

△亞細亞マイノル、希臘、及び西班牙の諸鑛山に於ては、奴隷の虐待其極に達したるものありしが、[illegible]

△[illegible]の如きは、[illegible]大道に於て[illegible]の奴隷を殺したる事すらあり。但し都市に於ては、[illegible]

是等の事實に依りて、此の大奴隷時代の歴史を案ずるに、生産の方法が未だ其の[illegible]に向つて十分に熟せざる間は、如何に宗教の關係を變ぜんと欲するも殆ど不可能なるを知るに足るべし。即ち歴史の發展が社會上及び經濟上の新形式を指示し、一般人心が知らず識らずの間に其の進路に向ふに非ざるよりは、改革の業の容易に成されざるを知るに足るべし。

△奴隷生産行はれて、富の增すに從ひ、[illegible]

此時以後、羅馬は其の奴隷生産と其の侵略戰爭の人口とを以て、富と奢侈とを茲に集中せる、世界の大市場と爲り、今の倫敦若しくは英國と同じく、其の状を喩ふれば、彼の血を吸ふに有名なる大蝙蝠が、世界の各地より細き流れを成して、富の血を吸取るとも云ひつべし。斯くて其の帝國も、其の文明も、其の榮華も、彼の家畜の如き奴隷が幾代も〳〵何の望みもなきに勞役して、自己は只だ僅かに饑渇を免れながら、全く他人の爲に富を產出したる功に歸せざるを得ず。史上豈に之に優るの偉觀あらんや。

△歐羅巴の一端より一端に通じて今も猶ほ存在せる其の大道を見よ、其の[illegible]行政組織を見よ、其の領內に曾て何等の[illegible]を見ざりし太平の現象を見よ、今の專門技師をして猶ほ且つ驚嘆せしむる幾多の公設の大工事を見よ、戰勝は其の必然の運命の如く感ぜられし其の大軍隊を見よ、西はブリテンより東は亞細亞マイノルに至る其の廣大の版圖を見よ、此の非常なる大組織は實に永世不朽のものと思はれたりしなり。

此の帝國の盛時に生れたる羅馬市民が其の佳麗にして端正なる大都市を見、其の道路を見、其の水道を見、其の橋梁を見たる時、此の偉觀の衰滅する事あるべしとは、蓋し想像せられざりしなるべし。而も其の起ることの遲くして且つ壯大なりし如く、其の仆るゝも亦た實に遲くして且つ壯大なりしなり。

△經濟の[illegible]は極めて遲々たりと雖も、其の原因より其の結果に進めり。伊太利のみならず、歐洲の半ば既に此の大奴隷制の弊[illegible]に依つて、殆んど死滅に瀕したり。

△上には古今に類例なき奢侈と汚行とあり、下には悲慘を極めたる大貧困あり。各地方は中央の吸收に依つて疲弊せり。奴隷は過勞に依つて[illegible]せり。[illegible]獨立せる羅馬軍隊は、今變じて傭兵となれり。而も猶ほ何人も此の明かに近づきつゝある大破滅を先見すること能はざりき。

△全建築の崩潰は、遂に西歐に來れり。彼の北方の大蠻人[illegible]侵入せり。彼等の侵入は只だ其の必然の壞裂を早めたるのみ。[illegible]

△斯くて侵入の波又波、[illegible]の力も無く、大奴隷帝國は遂に[illegible]、而して是より長期の過渡時代の間、其の[illegible]の中に、新組織は其の根を張り、[illegible]、遂にかくして封建制は歐洲西部一般の社會組織と爲れり。（未完）

◉謀殺的勞働

山口孤劍

事實を事實として語らしめよ、これは實に悽慘の面を掩ふて泣かしむべき悲劇也、開けゆく鐘ヶ淵紡績會社に於ては、暗から暗まで、一日十二時間の激烈なる勞働に必ず其の裏門より[illegible]、生命を交換したる憐れなる工女の小さき白き柩が夕闇を縫ふて夏草の茂みに隱れ行くを見ざることなかりしが、近時絶えてさる現象を見ず、人はこの怪に答へて言ふ、これ機械に手足を折られ、或は病患ある工女は、病院に送ると稱して、そくばくの金錢を與へて人知れず故郷に歸らしめ、否らざるものは解雇して會社の責任を免れ以て社會の攻撃を遁れんことを力めをれるが爲めなりと、竹屋の渡頭夜雨黒うして[illegible]なるの時、髮は蓬の如く衣は[illegible]の如き十餘人の工女は病を抱いて行くべき所なく、哀泣[illegible]を徹せりと、道徳家よ、宗教家よ、彼等に人間の義務を行へと、叫ぶことを休めよ、[illegible]社會の義務を[illegible]、資本家よ、博士よ、經濟學者よ、生產！分配！需要！供給！[illegible]！利益！其の[illegible]學說と、[illegible]理論を說くに任す、[illegible]

[illegible]嗚呼、余は今に於て想起す、彼の悲慘なる文豪ゴルキーが、一日モスコーの[illegible]に至り、陰鬱狹隘なる[illegible]に、[illegible]人が黒く焦げたる顏を火爐に埋めて、半裸、[illegible]、パンの製造に餘念なき[illegible]を見て、彼が渾身の[illegible]一時に[illegible]、[illegible]

[illegible]嗚呼、印刷職工よ、工場勞働者よ、炭坑夫よ、小作人よ、[illegible]可憐なる同胞よ、[illegible]

[illegible]謀殺的勞働[illegible]

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

慈善心

原 國外

間宮芳五郎と言ふ男、當年取つて廿六歳不幸にも幼少の時兩親を失ひましてから右の文句ですが寄邊なきさの捨小舟、彼方此方に漂泊ひ歩き、浮世の苦勞といふ苦勞をさんざ嘗め盡して、辛と二十歳の齢を迎へましたが、若いうちには誰しも覺えのある事、フとした機から去る婦人に思ひを致しました所、所謂お醫者様でも有馬の湯でも癒りませぬのが、貧乏と言ふ病氣と戀といふ病氣、英語では此戀の病をラブとかアブとか申す相で御座いますが、此病氣にドー致しても其目的を達しないうちは癒りませぬ、然るに芳五郎は哀れ不僧にも其目的を達する事が出來ませぬで、遂に其失戀―コレも英語ではロストラブと申します、―に終つて仕舞ひましたが、夫れが爲め非常に悶え苦しむだ上何の果か一人生僧か五十年と申した、ドーも此語りですが、同じく悟ると申しましても、釋迦や基督の眞言に早めたいお語りでこざいますが、凡夫の[illegible]足る者[illegible]られますが、[illegible]の方で、ナー二矢つて逃る[illegible]五十年[illegible]十年、七十[illegible]なり、長短い一生を[illegible]いて[illegible]るいか、[illegible]何だとソレ[illegible]何でも自分[illegible]に[illegible]ふべしだを[illegible]出來[illegible]おさまる、事前例と見たら死んで退けるばかりだ、とコレからと言ふものは[illegible]な[illegible]日な芳五郎[illegible]ガラリと一變つて、頭に[illegible]と[illegible]落ちしました、人間[illegible]たら[illegible]たり[illegible]、イヤモ[illegible]しにはならない[illegible]月の或る寒い月の[illegible]と、何心[illegible]したものか、芳五郎大分醉酊を致しまして、兩國橋の袂を過ぎて通りかゝつた濱町河岸、但ある横町を這入りますと、右ッ側に舟板塀に見越の松と言ふ、お誂への小意氣な家が御座います、芳五郎は醉眼ながら乾と見あげて、『ヨウ雅な家だ、ハヽア誰れかの妾宅かな、コヽの格子戸を開けると、チリヽンと鈴の音、小犬がワンワン、おい來たよ、アラ旦那、テナ寸法だな、ヘヽ畜生うまくやッてやがらア、憚ンながら己なざア、コレから家へ歸たつて、オヤお前さんお歸りかい、なンと言つて呉れる奴が、無いから心細いや……併しコノ松の枝が一本、塀越しにニユッと飛りつ出た所はオツだね、首縊るにやアイヽ枝ッぷりだ、一寸やつて見るかな、明日の朝になッてソレとは知らず、旦那今晩も是非居らつしやつてねえ、何にも旦那の様に、ソウ艶様ばかりを御大切になさらなくッても可いじやありませんか、ウム大丈夫だよ、今夜來るから御化粧でも爲て待ッてお出でかナンかで、野郎謎を牛のやうにたらして、ヅツと出ると、松の枝からブラリウハヽヽヽ、面白い、行る可し行る可し、何事も經驗して置いて惡い事はねえ、首縊りの經驗だけは一度やッたら二度とは出來ねえ、[illegible]と他愛も無い事を思ひ乍ら、行かうとする途端、旦那さま旦那さまと言ふ聲、流石にギヨッとして振り向きますと、件の妾宅の軒下に人間が獨りうづくまつて居る『お呼びなすッたなア手前の事ですかい、ナニお助け下さいッて、ハヽア腹の減た、貴殿も其手前と同様、一圖[illegible]しての歸るさ、ブッ仆れて仕舞ふ如して、ソレで手前に起して呉れと仰有るだね、宜うです、同病相憐れむだ、サア起して上げやせう』と手を取らうとする、旦那様、私は左様な香氣な者では御座いませぬ』『ヘイ、ぢやあ、ド、ド、何ふしたてンですい』と言ひつゝ能く見ますると、齢の頃は七十餘りの瘦せ衰へた老爺、此炎天に海草のやうな編人一枚、急病にでも惱みますものか、[illegible]れた儘起きも上らぬ傍には古三味線が一挺『見れア大分のお老年、老爺サン、マア何ふしたてえンです』問はれて老爺は水ッ鼻をすゝり乍ら『お聞き下さいまし、私は本所横網に住ひを致す者で御座りますが、廣い世界に杖柱とも頼みまするタッタ一人の孫め、當年十八の娘盛りな、去る工場に通はしまして、辛と二人い生命をつないで居りました所、其孫が昨年、ツイ腸病をわづらひまして、明日をも待たぬ生命、藥一服さへ飲ませられませぬばかりか、肝腎の稼ぎ人が其始末で、粥一椀さへ食べさせられませぬ、と申して私は御覽の通り當年七十三歳の老體で一文半錢の稼ぎもなりませぬ、コウして居ればニ人とも餓死、ナニそれアモウ私は此年、何時死んでも恨みは御座りませんが、心死りは孫の身の上、コレからを結ばうといふ蕾の花を散らして退けまするのが、いかにも不憫で御座ります、デ先お貴君、若い時分にサンザ親不幸を致しましたのが幸か不幸か、端唄の一ッ位い彈けまする所から、この古三味を抱へて一文二文と人様のお恵みに預つて居りまして、今晩はサッパリ駄目で御座ります、唯今夕刻からツイ唯今迄所所方々と歩きましたが、一厘も頂けませぬ、マヽよ思ひ切つて歸らふと、此處迄は來ましたものゝ、病者に惱んで老爺の歸りを待ち焦れて居ります、可愛い孫の事を思ひ出しますれば、一文のお錢も持たずに、ドーしてお歸られませう、ド、何ふしてお歸られませう、旦、旦那様、何うぞお助け下さいまし、通りがゝりの旦那様をお呼び止め申しまして、斯様な事をお願ひする、厚かましいにも程がわると、自分が自分に呆れまする、これも孫の可愛さばかりに『モシ旦那様、人一人助けると思召して、ドーぞ一つ、哦を歎はせて下さりませ』と涙ながらの物語りに、芳五郎も吾れ知らず涙ぐみまして、一成程成程、イヤ何うも、安心しねえ老爺さん、歎なざア聞き度かねえが、助ける、大丈夫助ける、老爺さんコヽに一圓五十錢あらア、五十錢だけは己アこれからまだ一[illegible]なきやならねえが、殘の一圓は構はねえ、お持ちなせい、而して何はだ其娘さんに何にか旨いものでも上げなせい『め、滅相も無い、其様な大枚なお金を頂きましては濟ひヽッて事よ、泥坊した金ぢやねえ、ケチな事を言はねえでお持ちなせい、呉れる人に、貰ふ人だ、お互に遠慮はしッこなし、ハヽヽヽ、時に其容子ぢや、横網までなッてもいちや行けめい、困つたなア』と思案を致して居りまする所へ、折良く一人の車夫さんが空車を曳いて參りましたので、車に[illegible]乘つて[illegible]ないと、抱くが如き人れませぬのを強て乘せまして、手前は永天宮[illegible]い海老やと言ふ下宿屋に居る間て之者だ、困つた時は何時でも來い、及ばず乍ら助けやうと、仁慈に[illegible]出す、合掌して別れ去る老爺の後影を、ジッと見送つたる芳五郎、あゝ可愛相な老爺サンだ、併し世の中にやア、有り餘る金をもつて、何に不自由も無え身であり乍ら、一人の女房に足らねえで、コンな立派な妾宅を構へて、[illegible]野郎もあれやア、其妾宅の軒下には七十にもなつた老人が、此夜寒に着る衣も着ず[illegible]に迫つて仆れて居ると言ふ、ア、道理の[illegible]らねえ世の中だなア、だから己ア神も佛も嫌えだて云ンだ、オイお月様、確かりしねえ、お前だつてぴかぴか光つて居る計りが能ぢやあるめい、マ、此妾の醜狀が見えねえのかオイ、天道様、せえコレだ、アノ老爺サンを見て可愛相なと思ふ奴が一人でも此世間にあるだらふか、無からうか、有るまい、己一人だらふ、無くッても構はねえ、己一人で助けてやらア、が待てよ、此世間にやアアノ老爺サン許りぢやあるめい、アンな可愛相なのが他に幾らも有るだらふ、シテ見ると己一人いくら金があつたからッて、世界中の貧乏老爺を一々助ける譯にや行かねえ、世の中に[illegible]イクラ[illegible]とか院だとか慈善[illegible]貧乏人[illegible]ソレでせへ矢ッ張り貧乏人[illegible]りだ、此父慈善とか[illegible]しいぞ、[illegible]をかこ付けに自分が甘い汁を吸はうとするからに見ても無い、乾と然だ、[illegible]ソレで無[illegible]にしてからが、孤兒院にやア限りがある、貧乏人にやア限りが無い、其限りのある[illegible]限りの[illegible]貧的を助けやうたッて、ソれが出來[illegible]此奴ア何にか他に宜い思案[illegible]酒の酔も醒め果てゝ家へ歸りましたが、それからは寢ても起きても[illegible]肝腎の相場の上り下りは[illegible]飯さい食べずに考へましたか、宜[illegible]出ない[illegible]ウムこれ[illegible]と下[illegible]商[illegible]に居りまする小[illegible]き[illegible]行き[illegible]と先[illegible]したは社會[illegible]だ、それ[illegible]み、コレ[illegible]自分[illegible]る時[illegible]ないと、大[illegible]心を致しまして、遂に社會[illegible]加入し[illegible]大活動をいたしまするとか云ふ話、[illegible]ではない紙面に制限がこざいますから、これにて御免[illegible]

先の茶話會[illegible]
[illegible]
[illegible]（作者）

●巣鴨だより

△予が獄中よりの發信は、愈々此度をもて最後となすこと相成、左様に致すの期は近づけり、今より三旬の後は頂天立地縱横無礙、諸君と親しく臂を把て談笑し得べきを想へば中心自から怡悦に充てり

△過ぐ來許らなく散もなし、鐵格子、雨に小暗き夕も常に斂めりき、鐵格子、涼風に戰げる隈を凝みつゝあり、一日又一日、只管書を讀りて滿腹を消す、若し夫れ諸君の友、殊心の事に到れば神に採牛として[illegible]我を忘る・[illegible]神の[illegible]なる枯川[illegible]諸兄の能く[illegible]し[illegible]ならむ

△本月も亦各地の同志諸君及び諸君より多くの同情と慰藉と教訓とを寄せられたるは感銘に堪へざる所也、萬國社會黨本部幹事ユイスマンス氏より五月五日付ブラッセル發にて慰問狀を寄せられたり、其文意は「萬國社會黨本部總務委員の命に依り、予は茲に貴下の勇敢なる行爲を祝賀（コングラチユレート）し、且つ貴下の健康と忍耐とを願る」と云ふにありき、是は元より個人としての予に送れるにはあらずして、實に日本の同志全體に對して敬意を表せんが爲め也

△予が出獄後に於ける經營は[illegible]多し、丸の内に大會堂を建築し同志の演説集會の爲めに充て、且つ其一部を結構局として一大日刊新聞を發行せんこと其一也、先づ米國に遊び精しく[illegible]に入り、中原に於ける同志の運動に參して[illegible]數年なる其二也、一切世事を謝絶して科學、哲學宗教の書を携へ、山中に遁れて[illegible]の著述に從事せんこと其三也、北海道或は朝鮮に田園を買ひ、數百人の農夫と理想的生活を爲して靜に天壽を養ふ其四也、此等四者其一を行ふも數千乃至數萬金を要す、赤貧なる予には終に空想に過ぎざるべし、嗚呼君等は何時迄か數寄屋橋畔の一破屋、下水の臭氣紛々たるの處に呻吟せざる可らざる乎、諸君吸來して如何

△金子氏の書簡に依れば萬國社會黨評論に予の書簡（下獄の日シモンス氏に送れるもの）を載せありしといへり、論說の方は未だ掲げられざりしや

△予の病氣は次第に快方に赴けり、但し終日法廷に直立せしめられて十分の辯論を爲し得るには今少しく體力の恢復するを待たざる可らず、七月三日の公判も延期を乞ふの外なからむ、御承知を乞ふ

△[illegible]より「ポーリユー」勞働問題、米國記事、[illegible]、田中君より理論を、[illegible]海先生遺稿を、大杉君より佛國語文を、安孫子君より健康法を差入られたるを感謝す

六月廿五日　枯川兄[illegible]　　秋水病夫

●●●[illegible]、月日と云ふものは實にサラサラと流るゝものですね、よく降りましたな、まだ天氣が定まりませぬ、けれども僕は依然たりで、何時までも續くものかは五月雨のいのちにとても限りこそあれ、など、力味て日を送つて居ります、御安心下さい

△獨乙語も毎日ヤッテ居るが遅々として進まぬ、まだ二百十一頁まで、ジャコブ、フオリコウク傳、今面白くなつて來り、彼が[illegible]としての六十年の生涯は僕に教ゆる所實に多い、「罪人一茶」も讀んで居ます、此等仲々面白い

△桐の花はモー疾くに散りましたが、ジヤガ薯の花は盛りに咲いて居ります、之れが今獄中唯一の花です、午後日の永きに苦しんで居ると鷄の長々と鳴く聲が聞えて來ます、之が又永き日に加勢をして、切りに睡氣を誘ひます

△夏來る、夏來る、聊か感慨なきを得ず、夏は僕にとり活動の時期なりしを以て也、今歳は只夢に各地に遊ばんのみ

△社の諸君及び同志諸君に別に變りがなくて結構、新聞の紙數も増へる方と聞き悦んで居ります、木下兄の東北行、羨ましい千、大阪平民社はどうしても續かせたいと思ふ

△山口君に「一度々々御手紙有難う、君が友情の厚さの情、又[illegible]外なし、君の苦悶に同情する、大苦艱を思ひ立たれしは悦ぶべきことと思ふ、人の苦悶をいやすもの世にたゞ「[illegible]」あるのみです、諸君は又自分を讀者の地位に置き、自分の傳記を書て見給へ、之れが自己を激勵する一良法です」と△坂井君に「スケッチ」何度有難う、ゆつくり見ることは出來ませぬが、御送附に接せし時一見しました、此一月質に千金」と△安孫子君に「健康法有難う、御子をなくして御淋しい事、有樂社の諸兄は大車輪ですね、油をさらさぬ樣に用心なさい」と△志津野、大杉、木呂の三君に「御下紙ありがたう」と御傳へ下さい

△此月は手紙を合せて三十九本貰ひました、自耳後の萬國社會黨本部から見舞狀を呉れました、文句は簡單ですけれど非常に愉快に感じました

△色々考へるけれども、どうも面白い本が思ひ出せぬので困る、夏になると四角な本はイヤだから何か面白さうな本が見つかつたら差入れて下さい

△氷水を飲んで健康を害せぬ樣に頼む、

六月廿五日　堺利彦樣　　西川光次郎

○本日發行○　定價金拾錢

荒村遺稿

山口孤劍　白柳秀湖　[illegible]　編纂

松岡荒村君白玉樓に去て已に一年、我等友人其の遺稿を纂めて梓に上し、世に問ふ所あらんとす、彼れの理想の實を遂ぐべく天上の樂みを慕ひ、人生の殘酷に悲憤し、[illegible]紅血凝して文章をなし、熱涙迸りて詩句を成す、人よ來て何ぞ此の「自由」を歎ひ、「[illegible]」を歎ひ、常に人道の爲に奮闘し[illegible]火の如き詩人を偲ばざる

取次所　東京市麹町區有樂町三の一　平民社

貧民窟の狀態（一）

下谷區萬年町　齋藤兼次郎

▲下谷の貧民窟萬年町と、唯だ一ト口に謂ふても、其實地町[illegible]仲々廣い、淺草公園に散歩がてら、[illegible]一見して、[illegible]こんなことでは貧民の實狀は知れるものではない[illegible]彼等が實狀を知らうと思ふなら、彼等が稼ぎに出る朝方か、勞者を終へ家に歸りて夕飯の支度をする時方か[illegible]雨の日に縁らなければ[illegible]

▲下谷、萬年町[illegible]神吉町四十四五[illegible]

▲世人は貧民といへば[illegible]

●看病紀行

赤人

▲六月十一日午後十時西に向つて大森驛を發した[illegible]手紙の樣子によれば二十日餘り[illegible]母の病を看んが爲である[illegible]

▲十三[illegible]

▲十四日、今日は少し[illegible]

運動基金募集

六月廿三日より廿九日迄の受付左の如し

▲金五十錢　淺草　無名氏
▲金[illegible]十錢　東京　同志者
▲金四十錢　本郷　[illegible]名氏
▲金[illegible]十錢　[illegible]　無名氏
▲金二十五錢　群馬縣　[illegible]氏
▲金三十錢　滿洲　[illegible]氏
▲金二十錢　島根　[illegible]氏
▲金[illegible]錢　大阪　[illegible]氏
▲金[illegible]錢　北海道　[illegible]氏
▲金[illegible]錢　相模　[illegible]
▲金[illegible]　千葉　[illegible]

小計金八圓九十[illegible]錢

[illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

同志の運動

▲九州傳道行商日記（十一）

小田頼造

（豐後大分より）

▲六月十一日、雨、朝野半丹來訪、延岡の有志家に紹介さる。朝から市内の市外を行商し、新代議士小林乾一郎、松山一三郎、弁護士若林綱之助、谷慶太郎等の諸氏に面した。今日は僕の第二十四回の誕生日、僕は此日を落寞の中に過ごしたことを喜び、遠く郷家を想ふて我を生み給ふた父母と、我を成長せしめたる天地、殊に生命を與へたる宇宙の大靈に向つて感謝した、世界に此の我、（エゴー）ほど不思議なものがあらうか。僕は人生の目的は此の「我」の向上發展と其れより來る一切人類の清き幸福にあると思ふ。此日吾中で同胞講[illegible]の電池に踏出してあるのを見て、實は大に喜んだ。是有爲なる生氏の著録に移り、人間自由の大光明が日本國民に於て必らずや發達大に勃興するならんと思ふからである。▲十二日、雨、今日も朝から[illegible]所、[illegible]出席三氏を訪ふた。[illegible]延岡まで[illegible]。宮崎縣[illegible]の間、多くは山[illegible]道で、行く[illegible]れば、路も[illegible]、後になつて[illegible]たけれど、後[illegible]たのには、少々[illegible]。[illegible]上に行き[illegible]、諸の[illegible]れたのである。深[illegible]は此の雨の中を[illegible]行きる、僕、防水衣、ヒドイ雨を防ぎ、ぬいで、上衣を着、笠、[illegible]ズボンやズボンドは無論のと、上衣[illegible]時に、[illegible]たので實に氣も[illegible]かつた。されど數人君、雨も意とせず雨中に歩いてるとなと思ふとこんなを位なんでも誰いとだ。▲十四日、雨、大原込三中智の門は山の中で、人家といつたら答[illegible]一軒しかない。雨が昨日よりもヒどかつたので[illegible]。[illegible]午後に[illegible]佐伯の[illegible]行きへ[illegible]、[illegible]たけれど、本は一向に賣れなかつた。此地は矢野文雄氏の郷里なので、土地の[illegible]社會[illegible]な者はないそうだけれど、[illegible]は[illegible]である。▲此の[illegible]の[illegible]。[illegible]大[illegible]なりと[illegible]。▲十六日、[illegible]一[illegible]人に[illegible]。[illegible]ハ日く[illegible]諸にも[illegible]四分に[illegible]分[illegible]申しますから、働くと許りても工面なよくは一賊目です」と。上下二里の坂路をのりて、[illegible]て[illegible]の婦人が自分の衣服の亂を掛へて吹ふてるのを見た、諸君觀よと物れ、此れ乞食にあらずして、實に[illegible]る[illegible]民の妻娘たることを。嗚呼僕は此の姑人を見て、心に[illegible]の涙なきを得なかつたのだ。僕は[illegible]の中にこんな女を存ぜしめるのは僕等の恥辱である。而してこんな女が將來人の妻となり母となるのかと思へば實に[illegible]ないではないか。此れは[illegible]小泊り▲十七日、雨、[illegible]大[illegible]の町で少々本を賣り、中戶次[illegible]、大分町へ着き、[illegible]に泊つた、[illegible]。[illegible]立派な建物を見たので、何校ならんと門の標札を注視すれば、縣立高等女學校、[illegible]。僕は未だ此の女學校程偉麗な女學校を見たことはない。標準不人[illegible]なる男性階級は此所で自己に最も都合のよい、學もあり藝もある奴隷的[illegible]で堅められた淫的奴隷を養成して居るのではあるまいか。此大なる建築物は即ち大なる壓制を閲表して居るのではあるまいか。血あり涙ある者誰れか女性に加ふる男性の凌辱に對して憤慨の情なきを得んやだ。▲此一週日に於て八十六册の社會主義的書類を賣つた。

▲社會主義者茶話會

（京橋區新肴町開花亭）

雨は晴れて鬱陶しいより多くの來會者を得て男女無慮七十餘名、官吏あり、職工あり、商人あり、教員あり、學生あり、小僧あり、初めに石川三四郎氏一場の挨拶を述べ、次に堺枯川氏、本日病氣の爲め來會すること能はざりし木下尚江氏の手紙を取り出で、「（上略）今日直言の「佐典の俚謠」に無上の感興相催し申候、俚謠は平民の聲也、勞働者の聲也、而して天の聲也、小生は歸省せらるゝ學生諸君が故園の俚謠を土産として上京せられんことを切望仕候「一時は五月雨、思はつのるかわく袂のひまもない」、「てらく(?)と日は照りながら降る小雨かくす涙の笑ひ顔、わしの心を察してか「江戶ぢや泣くなよ、在所へ行んで、荒れた田地へたんと泣け」と讀み上げ、枯川氏は更に過去半年間に於ける吾黨の運動を報告し、我等今歌ひ與ぜる時、二人の同志は幽冥陰濕なる牢獄の下、影騙ろなる燈臺に對し沈思冥想久うせざるならんと言ふ時、語振ひて會衆は胸い迫るを覺えざりき、次に人力車夫界の老雄[illegible]氏出でゝ車夫生諸君の歸省を送るの辭を述べ、昔の勞働者は文字を知らぬものは少かりしが、文明の進步は眼に丁字なき勞働者を增加せしむるを語り、櫻井[illegible]郎氏は、夜[illegible]所なくして共同便所に眠り、中身の賃銀に押めて遺失物を拾集して餘傳を利せんとする貧人あるを語り、小川[illegible]君は出て、現時學生の無氣力を慨し、社會主義の福音を唱へざるべからざるを絕叫し、山口[illegible]君は痛快なる歸省を操つて山の如き[illegible]と林の如き[illegible]ありて、「曾我(?)」老、大宗教家、大文學者たる日本[illegible]氏は滅亡すべしと國民を叱咤し、土屋[illegible]氏は歸省を送りて、[illegible]、[illegible]なる[illegible]會を[illegible]しくして[illegible]る大自然のさゝやきに耳傾けよと勸め、[illegible]の如き[illegible]醉はしめ、予は出でゝ學生諸君の歸省して小作人の爲めに同情の[illegible]を掲ぐべきを叫び、それより[illegible]の[illegible]あり、各歌ふ[illegible]して[illegible]き我等の歌を唱ふて解散せるは十時過ぎなりき、我等は諸君と共に手を別たん、諸君走つて人民の中に行け、[illegible]に[illegible]先はざるに人[illegible]何でも[illegible]、[illegible]より[illegible]行けよ、人民の中に行けよ、[illegible]、山より[illegible]、「作田[illegible]の[illegible]」、[illegible]に[illegible]音の[illegible]らすや（山口孤劍記）

▲橫濱曙俱樂部

▲同會は橫濱に於ける社會主義者の團體なり、▲同會は俱樂部を末吉町三ノ四七高畑氏二部方に置く▲同會は毎土曜日後七時より社會主義研究會及び談話會を俱樂部に開く、▲同會は毎月一回演說例會を開き主義の傳道に力む、▲橫濱及び附近の讀者諸君同志諸君は奮ふて來れ、共に社會主義の爲めに戰はむ。

▲國府中平民俱樂部

第十次小集六月十六日午後八時、例の如く寄生町四十七番地篠崎氏方に開く、來會者は近頃の定連五名、先づ篠崎氏より會務に關する報告あり、誰々かの發議によりて社會主義の歌を合唱し、次いで渡邊氏の社會主義に入りし動機談あり、其より主義に關する雜談に時を移し、十時半散會したり、次回は七月七日同所に開會（平民）

▲山形同志懇和會

△日時　毎月第二第四日曜午後七時より
△場所　山形縣廳裏平民屋
△會費　五錢、何人たりとも來會を歡迎す
平民文庫縱覽所あり、時を選ばず弘く來觀に供す

●物を食ふ事を耻づる人民

△一旅客の語りて曰く、印度山中の[illegible]族中には、物を食ふ事を耻とする一社會あり、予らく其風俗を視察したるに、凡そ左の如き結果を得たり。
△彼等も亦一般人類と同じく食事を以て必要なりと認む、然れども彼等は之を已むを得ざる不潔なりと稱せり、彼等の大目的は[illegible]な地下に驅逐するに在り、此村の大通りには決して食物店を見ることなし、然れども町はづれに至れば、村民が暗夜密かに行きて食物を買ふ處あり。
△新しく食事を恐るゝこと甚だしき社會に於ては、食の風などあるべくも想はれざれど、事實は其反對にて、大食、過食は寧ろ他處よりも甚だしきものあり、一般人民の思想は殆んど食ふ事のみに占領せられたり、少年數人相集る時は、必ず食事に關して馬鹿話を爲す、若し學校の教場にて極めて遠まはしに食物の事を[illegible]せしむるが如き文章ある時は、級中の生徒は必ず皆な目くぜして微笑するなり、而してそは決して小年のみならず、大人も亦皆な同じ、彼等は常に食物の事に關してみだらなる話を爲し、其[illegible]も絕えず此の思ひに依りて極き[illegible]さる、彼等は實に其門が顚倒せるかと思はるゝばかり食り食ひ、彼等の身體は實に此の食事の爲に精力を過費するに依りて[illegible]せり、又彼等は食物の不足なるが爲に多くの疾病を有せり、總て食物の供給は暗所に於て行はるゝが故に、譬へば彼の[illegible]に於ける酒の密賣の如く、而して之を賣る者は何時警官に引致せられ[illegible]所罰を受くるやも測られざるに依り、其の飲食の價も甚だ高し。
へさに食物を賣る者は常に醜陋下賤に濁し、社會に於て好き地位に立つ事能はず。されど彼等は又善く[illegible]の地位あるべきに[illegible]所以を知れり、彼等は良家の青年を其の食物店に誘ひ、飲酒賭博を教へ、種々の惡習に染ましめ、其身心を荼毒し終る。
△事情斯くの如きが故に、其社會の善人等は常に此の社會的害惡を除去するの法を講じ、一層深く此の惡風を地下に埋めんと欲し、絕えず食物店の主人を警察署に引致して罰金を課し、到る處の教壇に於ては絕えず食事を爲す事の不德なる所以を說教すれども、曾て其效ある事なし。
（此の一文は、男女の性慾に關する、現下社會の偽善なる思想を痛罵せるものなること說明するも野暮なるべし、性慾は食慾と共に人生の二大要件なり、之を導き、之を節するの法、深思熟慮せざる可らず、偽善なる禁慾主義に決して眞の解釋法に非ざる也）

●新刊紹介

▲知識と趣味（新渡戶氏編述）　著者曰く「本書は即ち世界的知識を世人に紹介し、兼て趣味を與へんとするものにして、識中記する所、多くは有名なる科學者の說、若しくは雜誌より抄譯せるものなり」と、世界最近の變遷、科學、發明、地文と統計、社會と傳記、文學と教育、奇聞と笑話、雜事、等の諸項に分ち、て記述せるもの無慮千題、科學者に說かざる科學、地理書に掲げざる地理學、文學書に見ざる文學、如何なる教科書にも記載せざる新事實等、荷も二十世紀文明を組織せる眞相現象を見出す[illegible]を網羅し[illegible]、世は現代文明の秘密を探り、現代文明の趣味を味はんと欲する者は須らく本書を讀むべきなり、菊判半切、三百頁、携帶に頗る便利なれば、學生旅行者の爲めには殊に必携の書と言ふ可し（定價三十五錢、本郷森川町[illegible]）
▲青海波（河井醉茗氏編）　今の東派の詩人に定評の一隅にありて常に研究怠らずは詩風の淸新にして格調の高古、冬比古の詩懷、夜雨の幽婉、[illegible]、[illegible]の[illegible]、宮崎の[illegible]、白[illegible]の[illegible]、[illegible]の[illegible]、先に[illegible]、若しくは白月、白蘇、[illegible]、[illegible]の如し、[illegible]に至りては豪快、壯麗、[illegible]の[illegible]す[illegible]きの[illegible]かざる[illegible]、江湖に推薦することを辭ぶものにあらず。（[illegible]）（[illegible]）
▲搾（河井醉者氏著）　人は[illegible]、[illegible]十年[illegible]向上するとなしと、[illegible]今の文壇にありて[illegible]もの、[illegible]て[illegible]詩人にあるべし、[illegible]は[illegible]なる詩人に[illegible]、[illegible]のならず、[illegible]彼は大なる[illegible]、[illegible]詩論[illegible]、[illegible]の[illegible]の[illegible]、[illegible]の[illegible]、[illegible]ならずや[illegible]、（發行所[illegible]）
△[illegible]（二〇五）
△[illegible]（二六八）
本[illegible]森川町同發行所
牛込東五軒町[illegible]社

木下尚江君新著

小說　良人の自白

（七月一日發賣）

（中篇）　定價卅五錢　郵稅不要

無愛情の結婚に導火せられたる現代の破裂を見よ、是れ社會制度の罪なり、著者は後篇に於いて人生の原理を說き、先づ忌憚なく明治社會の眞相を描寫して國民の省慮を促せり、大膽の文、莊嚴の筆、[illegible]文壇近來の偉觀たるべし

●發行所　東京市[illegible]區有樂町三丁目　平[illegible]社

平民文庫出版廣告

●社會主義入門（[illegible]）
●消費組合の話（[illegible]）
●地理の[illegible]（[illegible]）
●現社會主義ラサール（[illegible]）
●土地國有論（[illegible]）
●富の壓[illegible]（[illegible]）
●經濟進化論（[illegible]）
●小說火の[illegible]（[illegible]）
●小說良人の自白（[illegible]）
●革命婦人（[illegible]）

五錢本之部

●百年の後新社會（[illegible]）
●理想鄕（[illegible]）
●ジョン・バーンス（[illegible]）

發行所　[illegible]　平民社
取次所　[illegible]　平民社

△東[illegible]（二九〇）
△大阪[illegible]（二一四）
△[illegible]（八二）
△[illegible]（[illegible]）
△[illegible]（九[illegible]）
△[illegible]
△[illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●社會主義と女子

◎今の社會には富豪と貧民との階級がある如く男子と女子との階級があります

◎女子は父に依り、兄に依り、夫に依るに非ざれば生活する事が出來ません。故に女子は何處までも男子の附屬物となつて居ります。

◎それで女子が結婚するのは、多くの場合、情ある戀の爲でも無く、深き愛の爲でも無く、唯だ其の夫に養はれんが爲め、養はれんが爲であります。

◎近來では、中以下の社會に女子の職業が多くなりましたが、是は又、男子に養はれぬ代り、男子と競爭せねばならぬので、一層悲慘な身の上であります、男子と女子とが職業に競爭する結果は、男子の失業者を多くし、一般に給料を安くし多數の獨身者を出す事になります。

◎故に今の社會に於ては、男女眞に深く相愛して清き家庭を作るなどゝは、殆んど望まれぬ事であります、之を救はんと欲するには、社會主義に依つて貧富の階級を無くし、男女の階級を無くするより外ありません。

◎社會主義は土地、資本、其他の生産機關を人民の共有にして、男女何人にも衣食住の安全を與へ、各々其の才能に應じて自由に其の業務を執らしめ、各々其の愛情に從うて自由に其の配偶を選ばしむるの道であります。

◎要するに、女子問題は社會主義に依りて始めて根本的に解決せらるゝのであります

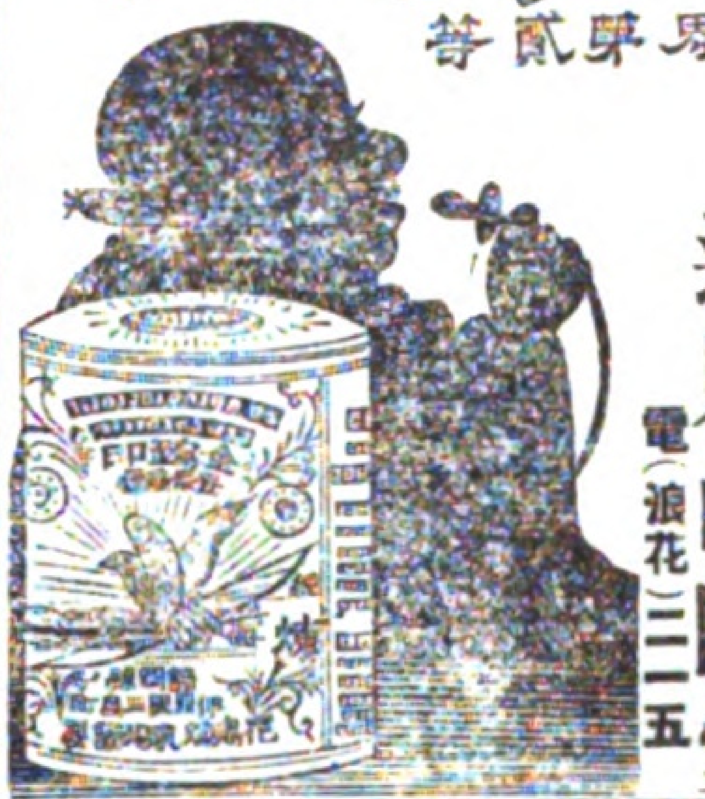
▲チラシ配布　右は今度新に印刷した一枚刷のチラシであります、チラシを配布する事は非常に有効なる傳道方法であります、然し平民社も貧乏ですからそう／＼無代價でチラシを配布する譯には行きませぬ、そこで今後は篤志の諸君に何程かづゝ費用を出して戴いて、順々に新しいチラシを拵へたいと思ひます、有志の諸君は先づ試みに郵便切手十錢を御送り下さい、さすれば本社は實費と郵税とを見計らつて百枚ばかり差上げます、百枚ばかりのチラシは何でも無い樣ですけれど、大抵見當を付けた友人や近處の人に一枚づゝ配る事にすれば、存外有効であらうと思ひます、まだ外に二種のチラシが出來て居りますが、それは次號以下に御披露いたします（平民社同人）

理學博士ウイリアムエルダー著　日本　星野德治君譯
自然觀
價三十錢　郵税四錢
博士エルダー氏は米國有數の理學者にして又敬神の人也、常に世の青年が己が淺薄なる學識を恃みて宗教を輕んずるを憂ふ、是を以て此著あり　本書は見るべき天地の萬象を觀察して見る可らざる靈の神を知らしめんと試むるもの也　科學と宗教とは反對せずして却て相提携すべきものなる事を知らしむ　迷へる者よ來りて自然と美と偉と其中に默示せらるゝ宗教を見よ

松村介石君著
修養の道程
價三十錢　郵税四錢
小童より大人に至り大人より老輩に至るまで凡て人たるものゝ心得べき要件を懇說したるもの也
發兌　東京市京橋區尾張町二丁目　警醒社書店

斯波貞吉編述（新刊）
小品千題　知識と趣味
▲定價卅五錢　郵税不要▼
目次左の如し
▲世界最近の變遷　▲科學と發明　▲地理と統計　▲社會と傳記　▲文學と教育　▲新聞と笑話　▲雜事等
外に附錄として洋行者失策談を添ゆ
發行所　東京市根津宮永町三六　平民書房
取次所　東京市麹町區有樂町三　平民社

ライオンはみがき　赤鑵入
体裁優美にして能く香氣を保ち頗る携帶に便也

金鵄ミルク
世界第壹等

東京市大傳馬町一丁目　逸見山陽堂　電（浪花）三三五

青春
第壹卷　目次大要
▲水に學べ（樋口配天）●富を追ふ（配天）●自然の心●家庭を離るゝ女學生に與ふ●田園荒る●世界革進の母●婦人記者の自白●愛と心（配天）●獨醒錄（田岡嶺雲）●女性の不幸●戰ひ路●五月雨（さと子）等なり
▲樋口配天編輯　▲一部十二錢　十二部六十錢　郵税不要　▲寫眞數葉　▲全紙優美紫刷
發行所　東京下谷區谷中初音町三の卅九　青春社

外科皮膚病　梅毒外科的婦人科尿道痲痔的器械的療法
診察　午前九時より十二時まで
東京　新橋際出雲橋　加藤病院　電話新橋二一〇三
院長　獨國醫學士　加藤時次郎
分院　横濱神奈川臺　火木土自午後三時至六時　小田原海岸　毎月曜午前中

●神經衰弱　遺精早漏陰萎勃起力記臆力衰退手淫の害
●陰莖包皮無痛速治療法
●梅毒●りん病●痔疾
●婦人科●せうかち●子宮病●血の道●月經不順
●地方患者は返信料添へ申込む可し
東京市神田區西今川町三番地　愛生醫院

傳染病研究所　東京病院　養生園　其他各病院　御用
專賣特許　**アルボース**
防臭と消毒の最良劑なり固形としてアルボース石鹼と稱するものあり日常廣く使用せられよ▲定價原液一斤入金卅五錢、通常液一斤入金拾三錢、同卅五斤入金二圓▲石鹼大形金拾三錢、小形金八錢
東京深川區東扇橋町五番地　扇橋製藥株式會社
▲賣捌所　全國各藥店及び小間物店

活版印刷
東京築地
株式會社
國光社
電話新橋二六九三番
特電話八八番

●書籍取次販賣（郵税無料）

社會問題解釋法	（安部磯雄著）	價一圓廿錢
廿世紀之怪物帝國主義	（幸德秋水著）	價廿五錢
百年後の社會	（品切）	價六十錢
小說勞働問題	（堺枯川譯）	價卅五錢
社會主義概評	（島田三郎著）	價三十錢
社會黨	（西川光次郎著）	價十五錢
產業組合手引	（森近運平編）	價二十錢
青年と生存競爭	（安藤毛喜著）	價二十錢
家庭の新風味	（堺枯川著）	價壹圓
家庭夜話	（同）	價壹圓
枯川隨筆	（同）	價二十錢
我家の犬猫	（同）	價八錢
トルストイ翁日露戰爭論	（平民社譯）	價八錢

取次所　東京市麹町區有樂町三丁目　平民社
取次所　大阪市中の島宗是町田簑橋南詰　大阪平民社

家庭雜誌
第三卷第七號要目
○母の完成（不及）
○冷水浴と深呼吸
○着物のしみぬき
○學生情死問題
○婚後半年所感
○鎮南浦便り
○二葉園 [illegible]
●結婚上の [illegible] の聞書
○果物の話
○サンドキチ [illegible]
○愛兒の死と所感
○三面雜報中 [illegible]
○泰西風俗雜話
○讀者の聞書
▲一冊六錢　▲六冊三十二錢　▲十二冊六十錢
▲郵税不要　▲見本は郵券六錢にて送る
東京芝區新堀町二十番地　由分社

婦女新聞編輯局編纂
一名こども　**天眞爛熳**　再版出來
▲定價金拾參錢郵税貳錢　▲郵券代用一割増

大和田建樹先生編
待宵門下の歌文集　**夕月夜**　三版出來
▲定價郵税共參拾八錢　▲郵券代用一割増
右發行所　東京牛込東五軒町　婦女新聞社

辯護士　今村力三郎
東京市神田區今川小路二丁目十四番地
電話本局一九四〇番

▲本紙定價　一部三錢五厘、廿部前金六十五錢、五十部前金一圓六十錢、郵税不要
▲廣告料　一行十九字詰三十錢
▲注文　は總べて前金に限る
▲郵券代用　（にて前金の場合には必ず一割増にて成るべく五厘の切手を用ひられたし）

發行兼編輯人　原眞一郎
印刷人　山田金市郎
發行所　東京府荏原郡入新井村字新井宿二五五七番地　直行社
發賣所　東京市麹町區有樂町三丁目　平民社　電話（本）三二六二
印刷所　東京築地二丁目二十番地　株式會社國光社　電話新橋特八八　新橋二六九三